

令和6年度

全国学力・学習状況調査、丹波篠山市学力・生活習慣状況調査より

丹波篠山市立八上小学校

全国公立の中学校3年生及び小学校6年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査（全国調査）、5年生を対象に実施された丹波篠山市学力・生活習慣状況調査（市調査）の結果を分析しました。

テストの結果だけで学力を測定することはできないことも事実ですが、この結果を授業や学校生活の工夫改善、家庭学習の充実につなげていきたいと考えております。保護者の皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

### (1)【算数】

6年生では、経年変化を見ると着実に学力がついていることがうかがえます。その中でも「図形」「変化と関係」の領域で概ね良好な結果が見られました。特に、その領域での記述問題（考えのわけを説明する）で良好な結果が見られました。昨年度から取り組んでいる「学び合い」での、得た知識を整理して友だちに伝える活動の成果であると考えられます。その一方、「数と計算」の領域で課題があることが分かりました。また、5年生では「変化と関係」の領域で課題があることが分かりました。

算数の理解促進のための手だてとして、四則計算（小数点の位置や、筆算を含む）の基礎的な練習問題に繰り返し取り組む一方、文章問題（伴って変わる2つの数量の関係の立式、前述の情報や数の性質などを利用して解く問題を含む）など発展的な問題について、丁寧に問題を読み解く時間を設け、友だちと学び合うことを充実させていきます。さらに、自分の考えを他者に伝える場面の設定をすることで、学習の定着につなげていきたいと思っております。

### (2)【国語】

6年生では、経年変化を見ると学力がついてきているということがうかがえます。その中でも、「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」の領域で概ね良好な結果が見られました。その一方、「書くこと」「読むこと」の領域で課題があることが分かりました。5年生でも、「書くこと」「読むこと」の領域で課題があることが分かりました。

「書くこと」に関して、ある程度の長さの文章を書くためには、何をどのように書くのかという見通しを持つことが必要になります。書き出しや要約のポイント等、日頃の授業において繰り返し指導してまいります。「読むこと」に関しては、昨年度から行っている漢字の先取り学習（予習）を活かし、主体的に学習に向かう力を育成するとともに、復習にも力を入れ、正しい漢字の知識の定着をはかります。また、学校生活を通して、漢字や言葉に触れる機会や読書活動を充実させてまいります。

子どもたちの学びの地図である学習指導要領（10年に一度改定）には、「学びに向かう力、人間性など」「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」の3つの力をバランスよく育むことが理念としてあげられています。激しく変わりゆく時代、その変化に合わせて学校での学びも変わってきています。また、今の子どもたちが大人になる頃、求められる人材も今とはちがったものになっていることが予想されます。これからの時代を見据え、主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の視点から「何を学ぶか」ではなく「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」ということを重視して、生きる力を育むことをめざしています。本校では、学校教育目標に「自ら考える児童の育成」という考えを掲げています。どの教科においても、基礎基本を充実させるとともに、自分事として捉え、友だちとの関わり合いの中で学びを深めることに継続して取り組んでいきます。昨年度から全校で取り組んでいる「学び合い」の中で、同学年・異学年の友だちとの関わり、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還させながら、児童が自らの学びを調整する力を育成します。さらに、気づき、疑問、ふりかえりを大切に、基礎基本の定着にも力を入れています。今後もご家庭と協力しながら子どもたちの学力向上に取り組んでまいります。ご家庭でも子どもたちの学習のサポートをよろしくお願いいたします。

